

全体総括

○計画期間；平成24年12月～平成29年3月（4年4月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

基本計画に基づき、「歩いて健康 活気ある居心地良いまち」を目指し、回遊性の向上、賑わい創出・交流促進、協働のまちづくりの3つの基本方針のもとに各事業を実施してきた。

上山城周辺のハード整備により、気軽に散策できる回遊ルートと魅力的な歩行空間が整備され、まちなかウォーキングへの参加者が増加するなど、回遊性向上の兆しが見られるものの、地域資源の活用不足により回遊性の向上にはつながっていない。

回遊型観光の拠点として複合機能を備えた温泉クアオルト拠点施設整備の未実施、ショッピングプラザカミン（以下、カミンという。）の集客力低下による周辺商店街への来客者数減少が、目標指標「歩行者通行量（休日）」「まち中の交流施設利用者数」の不達成の大きな要因となり、その対応が急務である。

上山城、武家屋敷等の回遊拠点施設においては安定した集客があり、賑わい創出に寄与している。また、中部地区公民館は市民活動の拠点として機能している。

各商店会が実施する商業祭等のイベントが定着し大きな賑わいを創出し、市民グループの自立した活動も定着してきたが、一時的・限定的な効果に留まり、恒常的な賑わいや回遊にまでは至っていない。

また、市全体・中心市街地ともに人口減少が進み高齢化率が高くなっているが、特に市全体に占める中心市街地の人口割合が低下し、高齢化の速度が市全体より速く、空き家が増加している。市民アンケート調査結果によると、中心商店街の利用者は高齢者や中心市街地居住者が多いが、この人口減少と高齢化の進行により商店街の利用頻度が減少し、賑わいが低下している。

このように、基本計画に基づくハード整備、拠点施設の利用、イベントや市民活動の定着が一定の効果を発揮した一方、集客力のある拠点施設の不足が大きな影響を及ぼし、人口減少の影響が大きな問題となるなど、中心市街地の十分な活性化が図られたとは言い難い状況である。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由（2.における選択肢の理由）

基本計画に掲げた51事業のうち48事業が実施済又は実施中であり、3事業が未実施となっている。事業進捗率は94%であり、計画した事業は概ね予定通りに実施できた。

上山城周辺のハード整備（道路美装化、歩道整備、駐車場整備、上山城の拠点機能強化、山城屋整備、武家屋敷整備、中部地区公民館整備等）により、気軽に散策できる回遊ルートと魅力的な歩行空間が整備され、まちなかウォーキングの参加者が平成25年度は198人であったが、平成28年度は2,011人に増加するなど、上山型クアオルト構想に基づく回遊性向上の兆しが見られるようになった。しかし、クアオルト関係、ワイン、温泉資源等の地域資源を活かした回遊を促す取組み不足やカミンの集客力低下により、歩行者交通量が平成24年度1,610人から平成28年度1,357人に減少するなど、

回遊性の向上と交流促進にはつながっていない。

中心市街地の拠点においては、平成28年5月にカミンの1・2階を所有し商業フロアを運営していた上山二日町ショッピングセンター協同組合が自己破産したためテナントが相次いで退店し、カミンの集客力が著しく低下したことにより、周辺商店街での歩行者通行量や来客者数も連動して減少した。また、温泉クアオルト拠点施設については、目標達成に向けた主要事業として、健康増進、観光案内、ギャラリー等の複合機能を備えた回遊型観光の拠点として整備を予定していたが、市の他事業との関係において候補地や事業内容の調整に時間を要し実施できなかった。施設の未整備等による観光情報の発信不足や地域資源の活用不足により、宿泊客数が平成23年度約282,500人から平成28年度約258,900人に減少するなど、交流人口が減少している。

回遊拠点施設においては、上山城の拠点機能強化により来館者数は年ごとに増減はあるものの約52,000人を確保し、武家屋敷整備により利用者数は平成24年度約4,600人から平成28年度約13,400人に増加するなど、安定した集客があり賑わい創出に寄与している。また、中部地区公民館整備により利用者は平成28年度約12,600人となり、市民活動の拠点として機能している。

商店街においては、各商店会が自主的に実施している商業祭等イベントが定着し、来場者数が平成24年度約6,100人から平成28年度約13,400人に倍増するなど、大きな賑わいを創出している。しかし、リピーター化する取組み不足により一時的な効果にとどまり、恒常的な賑わい維持にはつながっていない。また、後述する市民アンケート調査結果による市民意識の変化に見られるように、空き店舗の増加や商店街の魅力・認知度不足等によって来客数が減少しており、経済活力の低下が見られる。

市民活動においては、景観向上に取り組む城下町再生志士隊等の市民グループの活動が自立し中心市街地で定着してきたが、若い人の活動拠点不足や市民グループの高齢化等による活動の低下により、賑わい創出と回遊性向上の効果は限定的であった。

このような状況を見ると、「歩行者通行量(休日)」「まち中の交流施設利用者数」とも目標達成には至らず、十分な活性化が図られたとは言えないが、まちなかウォーキングの参加者増加、回遊拠点・市民活動施設での安定した利用状況による賑わい創出、イベントでの来場者数倍増による賑わい創出、市民活動の定着など、基本計画に基づく様々な事業展開による効果が表れており、中心市街地活性化に一定の効果があつたと考えられる。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

上山市中心市街地活性化協議会としては、行政や関係団体と連携・協議しながら中心市街地活性化に向けた取組みを行い、計画に位置付けられた事業は概ね実施されたと考える。

上山城周辺整備による回遊ルートや歩行空間の形成によって気軽に散策できる環境が整い回遊性向上の兆しが見えることや、商店会や観光物産協会が実施する商業祭やワインバルが定着し大きな賑わいを創出していることなど、計画に基づく取組みによって活性化に一定の効果があつたと評価できる。

しかし、計画に掲げていた2つの目標数値である「歩行者通行量」「まち中の交流施設利用者数」については、ショッピングプラザ・カミンの集客力低下や温泉クアオルト拠点施設整備の未実施等の影響もあり、どちらも目標を達成できず十分な活性化が図られたとは言い難い状況であり、今後の大きな課題である。

また、市全体に占める中心市街地の人口割合の低下、高齢化の進行、空き家の増加が商店街の利用頻度減少や賑わい低下の要因となっているため、人口減少及び空き家対策も新たな課題である。

今後は、新たな拠点整備による賑わい創出と交流促進、それらの施設と連携した商店会の自主的取組みの強化による魅力向上と商業機能の充実、上山城周辺の回遊ルートや歩行空間を活かした回

遊性の向上、まちなか居住の推進など、引き続き官民一体となって中心市街地の活性化に取り組んでいく必要がある。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

<調査概要>

中心市街地に関する市民アンケート調査

実施主体: 上山市

調査期間: 平成28年12月15日～26日

調査対象: 16歳以上80歳未満の市民1,000名

調査方法: 郵送調査法(郵送による配布・回収)

回収数: 387

<調査結果>

①中心市街地に出かける目的

・全体では「買い物」(56.6%)が最も高いが、前回調査結果(平成20年)と比較して、71.1%→56.6%と14.5%も低下しており、買い物機能の低下が見られる。

②中心市街地に出かける頻度

・前回調査結果(平成20年)と比較して、「ほぼ毎日」とする回答が増加(19.5%→21.7%)する一方、「週に3～4回」(17.6%→15.5%)、「週に1～2回」(32.4%→28.2%)とする回答は減少し、「ほとんど行かない」(4.2%→6.7%)という回答が増加するなど、利用頻度の二極化が見られる。

・中心市街地に行かない理由について、前回調査結果(平成20年)と比較して、「車を停める場所がない」(25.9%→10.7%)、「気軽に休める場所がない」(7.4%→0.0%)とする回答が減少し、駐車場や休み処等のハード整備による効果が表れている。しかし、全体では「行きたいが、買いたいと思う店がない」(71.4%)が最も高く、個店や商店街の魅力向上や認知度アップが課題である。

③中心商店街での買物に対する評価

・前回調査結果(平成20年)と比較して、ほとんどの項目で「満足」とする回答が高まっており、なかでも「専門店としての商品知識」「接客サービス」「店の種類の多様さ」の項目で評価が向上しており、既に商店街を利用している人からの評価は高い。

④中心市街地活性化のテーマ

・全体では「商店街の魅力ある店舗を増やし、商業機能を高める」(30.7%)が最も高く、前回調査結果(平成20年)と比較して、13.1%→30.7%と大きく増加しており、商店街での商業機能向上に対するニーズが増加している。

これらの結果から、ハード整備による効果や買物に対する評価の高まりなど、基本計画の取組みによる一定の効果があったと考えられる。一方、商店街での商業機能低下に対応すべく、今後商店会の自主的取組み強化による魅力向上や認知度アップが必要になってくる。

6. 今後の取組

今後の課題としては、観光情報の発信不足や上山城周辺の回遊ルート・地域資源の活用不足等による交流人口の減少、空き店舗の増加や商店街の魅力・認知度不足等で商店街の来客数減少による経済活力の低下、若い人の活動拠点不足や市民グループの高齢化による市民活動の低下、市全域より中心市街地の方が人口減少と高齢化の進行が早く空き家増加による地域活力の低下が挙げられる。

今後は、駅前観光施設整備や観光誘客の取組みによって、新しい人の流れを上山城周辺の回遊ルートに結び付け、上山城・武家屋敷等の回遊拠点やクアオルト関係・ワイン・温泉資源等の地域資

源を活かした回遊を促す仕組みづくりを進め、交流人口の拡大を図る。

個店や商店街の魅力向上により商業機能を強化し、イベントによる賑わいを拠点施設との連携により日常の賑わいにつなげ認知度を向上させ、空き店舗を活用した新規出店を促す取組みによって商店街の来客数を増やし、経済活力の向上を図る。

カミン再生整備により多世代の活動拠点を整備し、中部地区公民館の活用と併せて市民活動の拡大を図る。

市営住宅建設や空き家等既存ストックの活用により、若い世代のまちなか居住を推進し、定住人口の確保を図る。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
市民及び観光客の回遊促進・商店街の利用促進による賑わい創出	歩行者通行量 (休日)	2,398人 (H21)	2,566人 (H28)	1,357人	H28.9	C
市民及び観光客の居場所づくり・市民活動の拡大による賑わい創出	まち中の交流施設利用者数	37,419人 (H23)	60,000人 (H28)	39,100人	H29.3	B

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

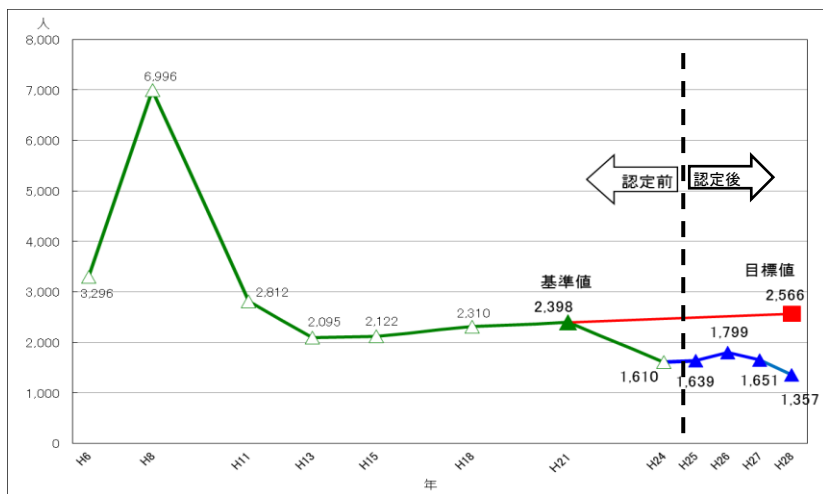
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

「歩行者通行量（休日）」※目標設定の考え方基本計画 P61～P72 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H21	2,398 (基準年値)
H24	1,610
H25	1,639
H26	1,799
H27	1,651
H28	1,357
H28	2,566 (目標値)

※調査方法：歩行者、毎年9月の第1週日曜日に7地点において8～19時で計測

※調査月：9月

※調査主体：上山市、上山市商工会

※調査対象：中心市街地7地点（旧山交待所、矢来三丁目、石崎A1前、カミン前、やぐら前、旧トキワ館前、旧ミヨシヤ前）における歩行者の通行量

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 温泉クアオルト拠点施設整備事業（上山市）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成30年度【未】
事業概要	まちなかウォーキング等の起点、観光案内、ギャラリー等の複合機能を備えた回遊型観光の拠点施設を整備する。
目標値・最新値	歩行者通行量(休日) 目標値:2,566人(H28) 最新値:1,357人(H28)
達成状況	達成できなかった
達成した（出来なかった）理由	中心市街地も候補地の一つになった温泉健康施設や観光物産交流施設の建設計画との関係において、場所の選定や事業内容の調整に時間を要したため事業を実施できなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	未実施のため事業効果なし。
温泉クアオルト拠点施設整備事業の今後について	施設の複合機能については、まちなかウォーキングの発着点と観光案内機能とを分離し、観光案内機能は駅前に整備する観光施設に集約し、まちなかウォーキングの発着点は上山城周辺施設を位置づける。

②. 上山型温泉クアオルト構想事業（上山市温泉クアオルト協議会）

支援措置名及び支援期間	観光圏整備事業補助金 平成22年度～平成28年度
事業開始・完了時期	平成20年度～【実施中】
事業概要	市民の健康増進と交流人口の拡大のため、気候性地形療法による健康ウォーキングを実施する。また、市街地の美装化した道路を活用し、商店での

	様々な体験を組み合わせたまちなかウォーキングを実施し、回遊型観光を普及拡大させる。
目標値・最新値	歩行者通行量(休日) 目標値:2,566 人(H28) 最新値:1,357 人(H28)
達成状況	達成できなかった
達成した(出来なかった)理由	医学的根拠に基づく健康ウォーキングの実施や、上山城周辺の道路美装・景観整備を行ったエリアや歴史小路(フットパス)を活かし、商店街振興会と連携したまちなかウォーキングの実施によって、参加者に商店街での楽しみや健康づくりの機会を提供した。まちなかウォーキング参加者は平成25年度 198 人から平成28年度 2,011 人に増加し、回遊性向上の兆しが見られるが、クアオルト関係や温泉資源等の地域資源を活かした回遊を促す取組み不足により、期待していた回遊性向上にまではつなげることができなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	市民及び来街者が商店街の魅力や健康づくりに取り組める環境整備により、市民及び観光客の回遊促進に一定の効果上げた。
上山型温泉クアオルト構想事業の今後について	引き続き本計画で整備した回遊ルートを活かし、商店会との連携を強化しながら多様な魅力づくりによって、回遊性向上に努めていく。
③. 上山城拠点機能強化事業(上山市)	
支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(上山城周辺地区)) 平成24年度～平成26年度
事業開始・完了時期	平成24年度～平成26年度【済】
事業概要	施設整備により歴史資料館や回遊型観光拠点としての機能を強化する。また、上山城を拠点とした回遊の起点となる広場の整備を行う。
目標値・最新値	歩行者通行量(休日) 目標値:2,566 人(H28) 最新値:1,357 人(H28)
達成状況	達成できなかった
達成した(出来なかった)理由	施設1階フロアのバリアフリー化、展示室の改装、大型パネルの設置、広場舗装整備等により、平成23年度の来館者数は 45,322 人であったが、平成28年度は 52,000 人と増加し安定した来館者数を確保しているが、その集客を回遊させる取組み不足により、期待していた回遊性向上にまではつなげることができなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	施設や広場の整備により、回遊型観光拠点としての機能が強化され、賑わい創出に一定の効果上げた。
上山城拠点機能強化事業の今後について	実施済み
④. 上山城特別展開催事業(上山城郷土資料館)	
支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成25年度～平成28年度
事業開始・完了時期	昭和56年度～【実施中】
事業概要	市の歴史・文化等を紹介する特別展や文化イベントを開催し、賑わい創出に努める。
目標値・最新値	歩行者通行量(休日) 目標値:2,566 人(H28) 最新値:1,357 人(H28)

達成状況	達成できなかった
達成した（出来なかった）理由	様々な特別展を開催し平成23年度の来館者数は45,322人であったが、平成28年度は52,000人と増加し安定した来館者数を確保しているが、その集客を回遊させる取組み不足により、期待していた回遊性向上にまではつなげることができなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	様々な特別展を通じて、魅力ある歴史資料館づくりを進め、賑わい創出に一定の効果上げた。
上山城特別展開催事業の今後について	様々な特別展の開催だけでなく、インバウンドに対応したソフト事業も実施しながら、施設の魅力向上と活性化を図る。また、上山城と商店街等が連携する取組みによって、来館者の回遊性向上に努めていく。
⑤. 山城屋保存・活用事業（榊葉山館）	
支援措置名及び支援期間	中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業 平成26年度 地域経済循環創造事業交付金 平成27年度
事業開始・完了時期	平成25年度～平成27年度【済】
事業概要	山城屋旅館は、地元出身の歌人齋藤茂吉所縁の旅館で、旧館と蔵は国の登録文化財に指定されているが、平成22年から閉館されていた。この歴史的建造物を温泉クアオルト事業を実践するための宿泊施設・休憩施設として再整備する。まち歩きやウォーキングの疲れを癒す温泉入浴施設、地元の食材などにこだわった健康食メニューを提供するレストランに加え、更衣室、荷物預かり施設、シューズ・ウェア等のレンタル等まちなかウォーキングの基地としての機能も備える。
目標値・最新値	歩行者通行量(休日) 目標値:2,566人(H28) 最新値:1,357人(H28)
達成状況	達成できなかった
達成した（出来なかった）理由	厨房器具等の設備投資、厨房改装、防寒対策工事等の整備を行い、地元食材にこだわったメニューや県産ワインを提供するレストランを開業し、荷物預かり等まち歩きの拠点として、平成28年度の来館者は3,744人であり、新たな集客を生んでいるが、その集客を回遊させる取組み不足により、期待していた回遊性向上にまではつなげることができなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	歴史的建造物を活用したレストランやまち歩きの休憩施設として、新たな回遊拠点機能を果たし、賑わい創出に一定の効果上げた。
山城屋保存・活用事業の今後について	引き続き、地元食材にこだわったレストランとしての食事等の提供や、まちなかウォーキングをはじめとしたクアオルト滞在プログラム、かみのやまワインプロジェクト等での活動・休憩施設として、回遊拠点の機能を担っていく。
⑥. 長屋門長屋整備事業（上山市、長屋門管理運営協議会等）	
支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成25年度～平成28年度
事業開始・完了時期	平成21年度～【実施中】
事業概要	空き店舗を改装して整備した長屋門長屋を市民や観光客が立ち寄るギャラリーや体験工房として活用し賑わいを創出する。
目標値・最新値	歩行者通行量(休日) 目標値:2,566人(H28) 最新値:1,357人(H28)
達成状況	達成できなかった
達成した（出来	ギャラリー、体験工房、イベントでの企画展示としての活用により、平成23

なかった)理由	年度の来訪者数は1,204人であったが、平成28年度は3,457人と増加し安定した来訪者数を確保しているが、その集客を回遊させる取組み不足により、期待していた回遊性向上にまではつなげることができなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	市民グループの活動拠点や観光客が立ち寄るギャラリー等として、まちなかの拠点としての機能を果たし、賑わい創出に一定の効果を上げた。
長屋門長屋整備事業の今後について	引き続き、市民や観光客が立ち寄るギャラリー、体験工房、企画展示等として活用し、回遊性向上に努めていく。
⑦. 道路の美装化事業(上山市)	
支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(上山城周辺地区)) 平成24年度～平成27年度
事業開始・完了時期	平成24年度～平成27年度【済】
事業概要	上山城周辺の道路の美装化によって、気軽に散策できる魅力的な歩行空間を整備する。
目標値・最新値	歩行者通行量(休日) 目標値:2,566人(H28) 最新値:1,357人(H28)
達成状況	達成できなかった
達成した(出来なかった)理由	道路の美装化は大部分の整備が完了したが、それを活かすソフト事業の効果が上がらず、期待していた回遊性向上にまではつなげることができなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	道路の美装化により気軽に散策できる魅力的な歩行空間が整備され、まち歩きする市民及び観光客が増加したとの声も聞かれ、市民及び観光客の回遊促進に一定の効果を上げた。
道路の美装化事業の今後について	実施済み
⑧. 図書館・店舗連携事業(上山市、上山二日町ショッピングセンター協同組合、各商店)	
支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成20年度～【実施中】
事業概要	カミン内の市立図書館とカミン内店舗及びカミン外の各商店が連携し、図書館利用者が各商店を利用した場合の割引制度を推進し、商店の利用者増加につながる事業を推進する。
目標値・最新値	歩行者通行量(休日) 目標値:2,566人(H28) 最新値:1,357人(H28)
達成状況	達成できなかった
達成した(出来なかった)理由	カミン内の市立図書館とカミン内店舗が連携し、図書館利用者割引制度を実施し、一定の利用者数を確保してきた。しかし、郊外への大型小売店舗の出店や上山二日町ショッピングセンター協同組合の自己破産により、平成23年度は1日平均7人であったが、平成28年度の利用者は月平均5人と大きく減少し、期待していた回遊性向上につなげることができなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	図書館と店舗連携による利用者数を増やすことができず、市民及び観光客の回遊促進に効果を上げることができなかった。
図書館・店舗連携事業の今後について	今後は、図書館とカミン周辺商店街との連携により、利用者を増加させ、回遊性向上に努めていく。

⑨. 一店逸品開発推進及び特産品開発事業（商工会）	
支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成21年度～平成28年度【済】
事業概要	優れた農産物、物産品、製造品などに磨きをかけ、研究会活動を通じて個店の商品の見直しと開発を進め、個店及び商店街の魅力アップや周辺への波及効果に努める。
目標値・最新値	歩行者通行量(休日) 目標値:2,566人(H28) 最新値:1,357人(H28)
達成状況	達成できなかった
達成した（出来なかった）理由	個店の一押しの商品等を紹介する店舗紹介・メニュー冊子や、商店街の個店及び逸品を紹介するマップを作成し、市内各所及び誘客イベントで配布し広くPRすることによって来客数が増加したが、その集客を回遊させる取組み不足により、期待していた回遊性向上にまではつなげることができなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	商品の見直しや開発、それらを紹介する冊子・マップによるPRによって、個店及び商店街の魅力向上につながり、商店街の利用促進による賑わい創出に一定の効果を上げた。
一店逸品開発推進及び特産品開発事業の今後について	当該事業は終了し、今後は個店の商品の見直しや開発だけでなく、個店の魅力向上につながる諸事業を展開していく。
⑩. 食の駅設置事業（めでた♪めでた花のやまがた観光圏推進協議会）	
支援措置名及び支援期間	観光圏整備事業補助金 平成22年度～平成26年度
事業開始・完了時期	平成22年度～平成26年度【済】
事業概要	地元食材、地場産農産物、伝統野菜を使用したご当地メニューや郷土食、村山地域の伝統食を提供する店を「食の駅」に認定し、新たな魅力を発信し、滞在促進とリピーター確保を図る。
目標値・最新値	歩行者通行量(休日) 目標値:2,566人(H28) 最新値:1,357人(H28)
達成状況	達成できなかった
達成した（出来なかった）理由	「食の駅」として「食」に限定した魅力発信から、多分野にわたって発信する「はしご湯治」「はしご御飯(ぐるめ)」において、旅館・商店に呼びかけスタンプラリーを実施し誘客を図ったが、その集客を回遊させる取組み不足により、期待していた回遊性向上にまではつなげることができなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	本市の魅力である温泉とグルメの分野で、旅館や商店との連携による誘客により、商店街の利用促進による賑わい創出に一定の効果を上げた。
食の駅設置事業の今後について	当該事業は終了とする。
⑪. 商店街活性化推進事業（カミン集客力強化）（上山二日町ショッピングセンター協同組合）	
支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成25年度～平成28年度
事業開始・完了時期	平成24年度～平成28年度【済】
事業概要	上山市の特産品を集約した物産・産直機能を強化し、地元消費及び観光

	客の利用拡大を図り集客力を高める。また、観光や市民、各地区などが開催するイベント情報などの発信とインフォメーション機能を強化する。
目標値・最新値	歩行者通行量(休日) 目標値:2,566人(H28) 最新値:1,357人(H28)
達成状況	達成できなかった
達成した(出来なかった)理由	カミン1階において、上山の特産品・地場製品の展示や広報宣伝事業を実施し、市民や観光客への販売やPRを図ったが、郊外の大型小売店舗の影響や、平成28年5月にカミンの1・2階を所有し商業フロアを運営していた上山二日町ショッピングセンター協同組合が自己破産したためテナントが相次いで退店しカミンの集客力が著しく低下したことにより、カミン全体の売上げ増加には至らず、期待していた回遊性向上につなげることができなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	ZAOたいらぐら直売所による農産物の直売などでカミンの集客力が強化され、商店街の利用促進による賑わい創出に一定の効果を上げた。
カミン集客力強化事業の今後について	当該事業は終了とする。
⑫. 中心市街地賑わい創出支援事業(各商店会、観光物産協会、商工会、各種実行委員会等)	
支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成25年度～平成28年度
事業開始・完了時期	平成18年度～【実施中】
事業概要	商工会や商店街が開催する定期市、商業祭、100円商店街などの定着を図り、賑わいの創出に努める。
目標値・最新値	歩行者通行量(休日) 目標値:2,566人(H28) 最新値:1,357人(H28)
達成状況	達成できなかった
達成した(出来なかった)理由	各商店会による商業祭の来場者数は年々増加し、平成23年度の来場者数は3,500人であったが、平成28年度は13,400人と大幅に増加し、大きな実績を上げ定着が図られてきているが、リピーター化する取組み不足等により、一時的な効果に留まり恒常的な賑わい維持に至らず、期待していた回遊性向上につなげることができなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	商業祭の定着が図られ、商店街の利用促進による賑わい創出に一定の効果を上げた。
中心市街地賑わい創出支援事業の今後について	引き続き、商業祭の定着を図るとともに、リピーター化する取組み強化により、一時的な賑わい創出を恒常的な賑わい維持につなげ、回遊性向上に努めていく。
⑬. 高齢者サロン設置社会実験事業(上山市)	
支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(上山城周辺地区)) 平成23年度～平成27年度
事業開始・完了時期	平成23年度～平成29年度【実施中】
事業概要	実験的に高齢者サロンを設置し、アンケート調査を実施し、調査・研修を行いながら、整備を進めていく。
目標値・最新値	歩行者通行量(休日) 目標値:2,566人(H28) 最新値:1,357人(H28)
達成状況	達成できなかった

達成した（出来なかった）理由	カミンの空き店舗スペースに常設型高齢者サロンを社会実験事業として開所し平成24年度の利用者数 13,434 人、平成27年度 18,588 人と増加し大きな賑わいを創出したが、カミンの上山二日町ショッピングセンター協同組合の自己破産による集客力低下の影響で平成28年度は 11,862 人と大幅に減少し、期待していた回遊性向上につなげることができなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	高齢者サロンは社会実験事業としての開所であり、平成28年度に利用者数が減少したものの、高齢者が気軽に立ち寄り交流する場となり、商店街の利用促進による賑わい創出に一定の効果を上げた。
高齢者サロン設置社会実験事業の今後について	当該事業は終了とし、カミン再生整備事業により、高齢者サロンを本格設置する。
⑭. 高齢者サロン設置事業（上山市）	
支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成30年度【未】
事業概要	空き店舗等を改修して高齢者が気軽に立ち寄り、趣味の活動や交流ができる場を整備することにより、介護予防、核家族化や高齢化の進展に対応した支え合いのまちづくりを推進する。
目標値・最新値	歩行者通行量(休日) 目標値:2,566 人(H28) 最新値:1,357 人(H28)
達成状況	達成できなかった
達成した（出来なかった）理由	カミンの空き店舗スペースに常設型高齢者サロンを社会実験事業として開所し利用者数が増加しているが、カミンの上山二日町ショッピングセンター協同組合の自己破産等が影響し、正式な設置場所を決定することができず、現状では社会実験にとどまり、本格設置には至っていない。
計画終了後の状況（事業効果）	未実施のため事業効果なし。
高齢者サロン設置事業の今後について	社会実験事業の総括を踏まえ、カミン再生整備事業により、高齢者サロンを設置し、高齢者が気軽に立ち寄って趣味の活動や交流ができる場を整備することにより、高齢者の生きがいづくりを推進する。
⑮. まちづくりセンター充実事業（上山市）	
支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成22年度～【実施中】
事業概要	市民によるまちづくり活動をサポートし、観光、商業分野との連携など、共通の目標に向けて調整を行うコーディネーター機能の強化を図る。
目標値・最新値	歩行者通行量(休日) 目標値:2,566 人(H28) 最新値:1,357 人(H28)
達成状況	達成できなかった
達成した（出来なかった）理由	まちづくり活動推進員による各種市民団体への企画提案・助言等の支援により、城下町再生志士隊等の市民グループの活動の定着が図られ、平成23年度の利用者数は 2,800 人であったが、平成28年度は 4,466 人と増加したが、拠点施設等での活動に限定され、その集客を回遊させる取組み不足により、期待していた回遊性向上にまではつなげることができなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	中心市街地において、市民グループの自主的活動の活性化により定着が図られ、賑わい創出に一定の効果を上げた。

まちづくりセンター充実事業の今後について

当該事業は終了とし、まちづくりセンターは地域おこし協力隊の活動拠点として、まちづくり活動を推進していく。

3. 今後について

目標達成に向けた主要事業である温泉クアオルト拠点施設の未実施や、カミンの集客力低下による周辺商店街への影響等によって、目標値の歩行者通行量(休日)は、基準年値をも下回る結果となった。

上山城周辺の回遊ルートや地域資源の活用不足等による交流人口の減少、空き店舗の増加や商店街の魅力・認知度不足等で商店街の来客数減少による経済活力の低下が課題である。

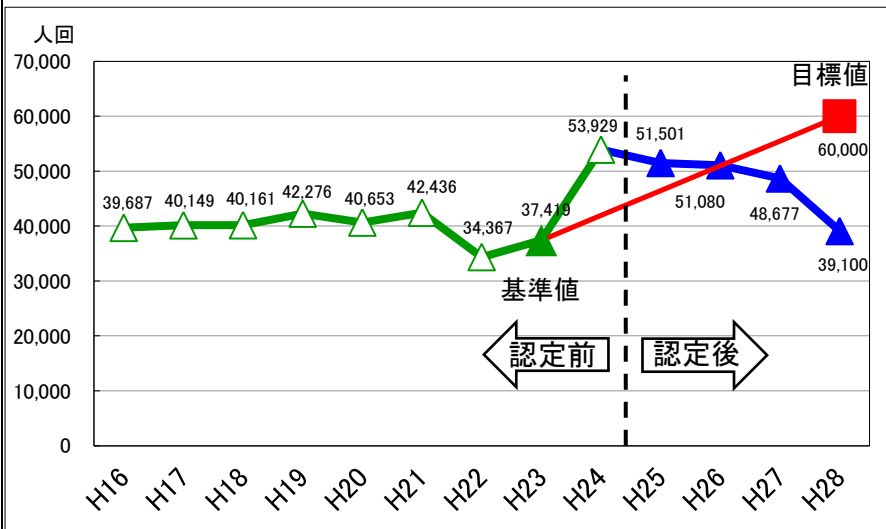
今後は、交流人口拡大のため、カミンや駅前観光施設等の新たな拠点施設整備によって集客力を高め、新しい人の流れを上山城周辺の回遊ルートに結び付け、クアオルト関係・ワイン・温泉資源等の地域資源を活かした回遊を促す仕組みづくりを進めていく。

また、個店の特徴を活かした商店街の魅力向上により商業機能を強化し、イベントによる賑わいを拠点施設との連携により日常の賑わいにつなげ認知度を向上させ、空き店舗を活用した新規出店を促す取り組みによって商店街の来客数を増やし、地域経済活力の向上を図っていく。

個別目標

「まち中の交流施設年間利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P73～P77 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H23	37,419 (基準年値)
H24	53,929
H25	51,501
H26	51,080
H27	48,677
H28	39,100
H28	60,000 (目標値)

※調査方法：利用者、毎年4月～3月までの実績値を集計

※調査月：3月

※調査主体：上山市

※調査対象：まち中の交流施設7施設（働く婦人の家、アビヤント・K、上山小学校屋内運動場、まちづくりセンター、上山小学校多目的ホール、温泉クアオルト拠点施設、高齢者サロン）における年間利用者数

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 高齢者サロン設置社会実験事業（上山市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(上山城周辺地区)) 平成23年度～平成27年度
事業開始・完了時期	平成23年度～平成29年度【実施中】

事業概要	実験的に高齢者サロンを設置し、アンケート調査を実施し、調査・研修を行いながら、整備を進めていく。
目標値・最新値	施設年間利用者数 目標値:17,591人(H28) 最新値:11,862人(H28)
達成状況	達成できなかった
達成した(出来なかった)理由	カミンの空き店舗スペースに常設型高齢者サロンを社会実験事業として開所し平成24年度の利用者数13,434人、平成27年度18,588人と増加し大きな賑わいを創出したが、カミンの上山二日町ショッピングセンター協同組合の自己破産による集客力低下の影響で平成28年度は11,862人と大幅に減少し、計画期間後半で落ち込んだ。
計画終了後の状況(事業効果)	高齢者サロンは社会実験事業としての開所であり、平成28年度に利用者数が減少したものの、高齢者が気軽に立ち寄り交流する場となり、市民の居場所づくりによる賑わい創出に大きく寄与した。
高齢者サロン設置社会実験事業の今後について	当該事業は終了とし、カミン再生整備事業により、高齢者サロンを本格設置する。
②. 高齢者サロン設置事業(上山市)	
支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成30年度【未】
事業概要	空き店舗等を改修して高齢者が気軽に立ち寄り、趣味の活動や交流ができる場を整備することにより、介護予防、核家族化や高齢化の進展に対応した支え合いのまちづくりを推進する。
目標値・最新値	施設年間利用者数 目標値:17,591人(H28) 最新値: 0人(H28)
達成状況	達成できなかった
達成した(出来なかった)理由	カミンの空き店舗スペースに常設型高齢者サロンを社会実験事業として開所し利用者数が増加しているが、カミンの上山二日町ショッピングセンター協同組合の自己破産等が影響し、正式な設置場所を決定することができず、現状では社会実験にとどまり、本格設置には至っていない。
計画終了後の状況(事業効果)	未実施のため事業効果なし。
高齢者サロン設置事業の今後について	社会実験事業の総括を踏まえ、カミン再生整備事業により、高齢者サロンを本格設置し、高齢者が気軽に立ち寄って趣味の活動や交流ができる場を整備することにより、高齢者の生きがいづくりを推進する。
③. 上山小学校改築整備事業(屋内運動場・多目的ホール)(上山市)	
支援措置名及び支援期間	学校施設環境改善交付金 平成27年度～平成28年度
事業開始・完了時期	平成27年度～平成28年度【済】
事業概要	上山小学校は耐震化のため建て替える必要があり、その整備が急がれている。この場所は上山城、武家屋敷、湯町に囲まれた位置にあるため、周辺の景観にマッチした外観となるよう配慮をする。また、周辺を散策する人も多く、学校の一部を開放エリアとし、イベントや団体の活動として利用できる多目的ホールを有する屋内運動場を整備する。
目標値・最新値	年間利用者数 目標値:11,206人(H28)

	最新値：7,308人(H28)
達成状況	達成できなかった
達成した（出来なかった）理由	平成28年11月に屋内運動場・多目的ホールが完成し市民に開放されたが、整備の遅れや工事の影響による利便性の低下、学校の防犯上の関係から施設利用に制限があること等により、平成23年度の利用者数は13,458人であったが、平成28年度は7,308人と減少し、目標達成には至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	屋内運動場・多目的ホールは、広く市民に開放され、スポーツ活動、生涯学習活動、会議等地域活動の拠点として活用されているが、利用者は減少しており、市民活動の拡大による賑わい創出にはつながらなかった。
上山小学校改築整備事業の今後について	実施済み
④. 温泉クアオルト拠点施設整備事業（上山市）	
支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成30年度【未】
事業概要	まちなかウォーキング等の起点、観光案内、ギャラリー等の複合機能を備えた回遊型観光の拠点施設を整備する。
目標値・最新値	施設年間利用者数 目標値：1,088人(H28) 最新値：0人(H28)
達成状況	達成できなかった
達成した（出来なかった）理由	中心市街地も候補地の一つになった温泉健康施設や観光物産交流施設の建設計画との関係において、場所の選定や事業内容の調整に時間を要したため事業を実施できなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	未実施のため事業効果なし。
温泉クアオルト拠点施設整備事業の今後について	施設の複合機能については、まちなかウォーキングの発着点と観光案内機能とを分離し、観光案内機能は駅前に整備する観光施設に集約し、まちなかウォーキングの発着点は上山城周辺施設を位置づける。
⑤. まちづくりセンター充実事業（上山市）	
支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成22年度～【実施中】
事業概要	市民によるまちづくり活動をサポートし、観光、商業分野との連携など、共通の目標に向けて調整を行うコーディネーター機能の強化を図る。
目標値・最新値	施設年間利用者増加数 目標値：560人(H28) 最新値：1,666人(H28)
達成状況	達成した
達成した（出来なかった）理由	まちづくり活動推進員による各種市民団体への企画提案・助言等の支援により、城下町再生志士隊等の市民グループの活動の定着が図られ、平成23年度の利用者数は2,800人であったが、平成28年度は4,466人と増加し、目標を達成した。
計画終了後の状況（事業効果）	中心市街地において、市民グループの自主的活動の活性化により定着が図られ、景観整備が進むなど市民活動の拡大による賑わい創出に一定の

	効果を上げている。
まちづくりセンター充実事業の今後について	当該事業は終了とし、まちづくりセンターは地域おこし協力隊の活動拠点として、まちづくり活動を推進していく。

3. 今後について

目標達成に向けた主要事業である温泉クアオルト拠点施設の未実施や上山小学校改築整備事業の遅れ、働く婦人の家やアビヤントK等の既存施設利用者の高齢化による利用者減少等によって、まち中の交流施設年間利用者数は、目標達成には至らなかった。

観光情報の発信不足や地域資源の活用不足等による交流人口の減少、若い人の活動拠点不足や市民グループの高齢化による市民活動の低下が課題である。

今後は、観光誘客施設や市民活動施設の整備が必要であり、既存施設の状況も変化していることから、中心市街地活性化に寄与する施設の見直しを行い、駅前観光施設やカミンの施設整備を行うとともに、上山城や中部地区公民館等の歴史・文化的な地域資源である既存施設を活用しながら、交流人口と市民活動の拡大を図っていく。